

第3章 文化芸術振興プログラムの目標像と基本理念

1 目標像 文化芸術で飛躍する東広島市

日本を代表する酒造りの文化や安芸の穀倉地帯としての米作りの文化に代表されるように、本市の文化は、瀬戸内海から賀茂台地に広がる豊かな里山・里海がもたらす資源を活用した、人々の生活に根付いた文化です。

古くから人々が生活を営んできたことから、弥生時代から昭和にかけて様々な時代の、人々の生活を示す史跡や文化財が数多く集積し、生活文化と併せて「東広島市らしさ」を形成する貴重な資源となっています。

こうした文化資源の中で、神楽や祭事を始めとする地域性豊かな文化芸術が生まれ、継承されてきた一方で、現代においても多くの市民が美術や音楽、舞踏、演劇など多彩な分野の文化芸術活動に取り組み、演奏会や展覧会などを通じて楽しんでいます。

このような市民の日常的な関わりを大切にしながら、文化芸術の裾野を広げるとともに、ブラッシュアップと多様な連携により、個性ある東広島の文化芸術を創造していきます。

さらに、国際学術研究都市としての特徴を生かし、東広島の文化芸術を国内外に広く発信し、東広島らしい文化芸術のブランド形成を図るとともに、ブランド価値を生かしたまちの活性化を図るなど、まちづくりのエンジンとしての文化芸術の活用を進めます。

2 基本理念

(1) ふれる ～優れた文化や芸術にふれる～

文化芸術の振興を図り、優れた文化や芸術にふれるためには、その基盤となり、核となる文化芸術の拠点形成する必要があります。文化・芸術・交流ゾーンでは、平成28年度開館のくららと平成32年度開館予定の美術館を核として、今後ますます拠点性の向上を図ります。こうした拠点から市全体へ文化芸術によるまちづくりが広がりを見せるとともに、洗練され、各地域の活動もより優れた文化芸術活動・体験を指向し、質を高めていけるよう市全体の発展を支える環境づくりを進めます。

(2) はぐくむ ～将来を担う人をはぐくむ～

継続的な文化芸術の振興・発展のため、本市の文化芸術を担う人材を育成します。

市民が文化芸術に興味を持ち、自身が活動したり、活動を支援したりする取組のきっかけをつくるのが重要であり、地域や学校など、日常生活の様々な場面において、市民が文化芸術を感じることでできる機会を広く提供していきます。

また、芸術家や芸術文化事業を企画・実施する人材、文化芸術を支えるボランティアなど、文化芸術の振興・発展を下支えする人材の育成のための取組を推進するなど、文化芸術の担い手の育成を図ります。

(3) つくる ～個性あるブランドをつくる～

本市を代表するブランドである西条の日本酒は、日本酒の醸造地としては全国で初めて「JAPAN ブランド育成支援事業」に選定されるなど、日本を代表するブランドに成長し、世界に向けて日本の酒文化を発信しています。こうした東広島市らしさを形成する大切な資源である、歴史や伝統文化の保全・継承を図るとともに、積極的な活用により個性ある文化芸術のブランドを育成します。

また、観光や商業などの産業等と文化芸術の連携を促進し、文化芸術のブランド力をエンジンとした、まちの賑わいづくりを推進するとともに、文化芸術に関する情報発信や市内外の人との交流を促進させ、東広島らしい文化芸術を国内外へ積極的に発信し、そのブランド価値の形成と向上を図ります。

(4) つなぐ ～人が集い、交わり、ひろがる～

市民一人ひとりの主体性を尊重しながらも、多様な主体の連携と協働により、文化芸術活動を積極的にサポートし、活性化します。

このため、交流機会を提供するなど、文化芸術団体等の連携を強化し、団体同士が協力し合う関係づくりを促進します。

また、学校や大学、行政機関、事業者などとの連携と協働を促進し、産学官が一体となって、市民による文化芸術活動を活性化させます。